

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	熊本県	市町村名	山鹿市	地区名	山鹿中央地区	面積	980 ha
計画期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度	交付期間	平成 20 年度 ~ 平成 24 年度				

目標

八千代座を中心とする豊前街道山鹿温泉界隈の歴史的町並みの魅力を活かした、中心市街地の賑わいと交流のあるまちづくり

目標1	住民・来街者が集う「にぎわい交流拠点」を形成する。
目標2	住民・来街者の交通環境と、歴史的環境を活かした住民の居住環境の向上を図る。
目標3	にぎわいのある商店街づくり。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

○本地区は、山鹿市の中心市街地を形成するとともに、旧豊前街道沿いなどに歴史的な街並みを残す歴史的環境地区であり、国指定重要文化財「八千代座」、「山鹿灯籠まつり」、温泉などの観光資源を有し、古くから山鹿の歴史・生活文化の中心として発展してきた地区であるが、生活スタイルや急速な社会変化などを背景として、中心市街地としての賑わいを失っている。
 ○平成10年に住民・商工会議所、婦人会、商業者、行政で構成する「山鹿協同隊」によるワークショップで中心市街地活性化基本計画を策定し、ハード・ソフトの両面から事業を推進しているが活性化実現には至っていない。
 ○官民協働による「まちなみ整備事業」により、旧豊前街道沿線(中心商店街)の町並みが改善されつつある。
 ○大型駐車場を備えた大型店が郊外へ出店したことにより中心部の大型店は撤退し、商業地としての魅力・活力が低下している。
 ○中心市街地の核施設であるブラザファイブは、平成18年度に「暮らし・にぎわい再生事業」の採択を受け、再開発ビルのリニューアルを推進しており、桜湯については、「さくら湯再生事業」を検討している。
 ○唯一の公共交通機関である路線バスだけでは、高齢者等の公共公益施設や中心市街地への交通手段が不足している状況である。

課題

- 既存の観光資源を有効活用するため核となる施設の拠点性を高める必要がある。
- 歴史的町並みを活かした景観形成の向上と歩きたくなる回遊性が必要である。
- まちの顔としての中心市街地商店街の魅力を高めるための支援が必要である。
- 自動車・バスによるアクセス性の向上が必要である。

将来ビジョン(中長期)

- 第1次山鹿市総合計画(平成18年3月)…にぎわいのある商店街づくりを推進することとしており、ブラザファイブ再整備事業(さくら湯再生を含む)の支援と連携や、温泉、八千代座、歴史的街並みなどの観光資源の有効活用が位置づけられている。
- 山鹿市都市計画マスタープラン(平成10年9月)…「歴史と温泉情緒の薫る魅力ある中心市街地の形成」のテーマのもと、中心市街地の都市機能や歴史的資源を活かすとともに、交通処理問題への対応が挙げられている。
- 中心市街地活性化基本計画(平成11年3月)…6つの基本方針である「温泉に行こう」、「歴史に浸ろう」、「歩きたくなるまちの交通環境をしっかりと」、「八千代座から発信しよう」、「商売を考えよう」、「暮らしを自慢しよう」をもとに中心市街地活性化を目指している。
- 山鹿市都市景観形成基本計画(平成10年3月)…山鹿市都市景観条例で、「豊前街道ゾーン」を「都市景観形成地区」として指定。地区全体の景観形成基準を設定するとともに、まちなみ景観を保全するため、景観形成建造物に「指定・登録」制度を取り入れ、助成制度を導入。街路整備などと一体的に推進する。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
八千代座入場者数	人/日	八千代座の入場者数(人/日)	八千代座周辺整備及びまちづくり団体活動の相乗効果により、八千代座入場者数の増加を目指す。	76,380人/年	H18	82,000人/年 (約7%の伸び)	H24
歩行者通行量	人/8h	山鹿市中心市街地の歩行者通行量(8地点合計) (人/8h、平日休日10時~18時の平均)	自動車アクセス性の向上と歴史的町並みを活かした歩行者空間整備により、来街者の回遊性が高まることから、歩行者通行量の増加を目指す。	4,426人/8h	H19	4,500人/8h (約2%の伸び)	H24
空き店舗数	店舗	中心市街地における空き店舗数	商店街の魅力向上により、活力ある商店街を形成し、空き店舗の解消を目指す。	62店舗	H18	25店舗 (約60%減)	H24